

予約制閲覧始まる

1年半ぶりの閲覧再開

閲覧室も完全リニューアル



閲覧室は全10席。大机では広々と新聞を閲覧できる。

約一年半の耐震改修工事による休館を経て、二〇二一年八月二日より明治新聞雑誌文庫が再開館いたしました。学外の方へも九月六日より閲覧サービスを開始しております(十一月現在、学内・学外いずれも事前予約制)。

現在、新型コロナウイルス感染拡大防止として大学への入構制限があり、閲覧サービスは事前予約制とすることで学内・学外から複数の予約が入り、連日学内外からお申し込みを頂いております。

また、閲覧サービスの再開に先行して、六月末より遠隔複写サービスを再開しました。こちらも開始初日から申請や問合せが相次ぎ、文庫資料への期待を強く感じています。

リニューアルされた閲覧室には、大判の製本新聞を広げられる木製机や椅子を新調し、マイクロフィルムリーダー、デジタル資料閲覧用端末を配置しました。改修によりスペースが減少しましたが、車椅子やブックトラックの移動も、スム



閲覧予約案内サイト

http://www.meiji.j.u-tokyo.ac.jp/reserve_about_meiji.html

ーズにできる通路の幅を確保しています。

閲覧の予約は明治文庫Webサイトにご案内を掲載していますので、そちらをご確認ください。



明るくなった閲覧室に再び設置されたマイクロフィルムリーダー

改修後も変わらず残る明治文庫玄関鉄扉と銅看板



ご来館の際には、玄関扉の上に掲げられた銅看板にご注目ください。右から左へと書かれた「法学部明治新聞雑誌文庫」の文字が皆様をお待ちしております。

東京大学総合研究博物館小石川分館がオンライン公開している「東京帝国大学営繕工事記録写真帳」に竣工当時の玄関写真が残っていることが分かりました。昭和四年十二月と記録が残る写真と現在の文庫玄関は、一部を除いてほぼ創設当時のままであることが確認できます。明治文庫は九十年あまりの歴史を経ても変わらない外観で、現在も資料を守り、多くの皆様にご利用いただいています。



竣工当時の明治文庫玄関前 (写真提供 総合研究博物館)

継承されていく風景

改修後、LED照明や壁の塗り直しなどで明るくなった館内は、改修前の歴史を感じる明治文庫とは印象が変わっていますが、玄関の鉄扉から風除室までは以前の姿を残しています。

明治新聞雑誌文庫 ニュースレター

第九號
令和三年十一月五日(金)
編集・発行
東京大学大学院法政学政治学研究所
附屬近代日本法政史料センター
明治新聞雑誌文庫
〒113-0033
東京都文京区本郷七三二
電話 〇三五八四二二二七

年二回発行

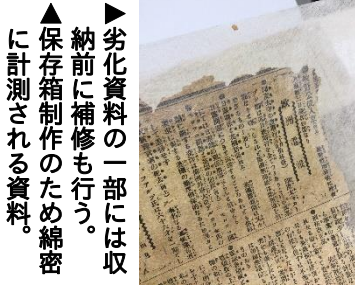
URL
<http://www.meiji.j.u-tokyo.ac.jp/>
Mail
meiji.j@gs.mail.u-tokyo.ac.jp
Twitter
[@UTokyo_LMeiji](https://twitter.com/UTokyo_LMeiji)

資料を守り 後世に伝える 所蔵資料の保存について

耐震改修工事に伴う資料移転計画を立てる際、大きな問題の一つが資料を傷めずに移動させることでした。文庫の中心資料である明治期から昭和戦前期の新聞・雑誌は、酸性紙が多く既に劣化が進んでいるため、移動の衝撃で壊れてしまう懸念がありました。

移転で進んだ様々な保存対策

衝撃に耐えられるよう進めた対策の一つが、資料に合わせた中性紙保存箱の作成です。



▲劣化資料の一部には収納前に補修も行う。
▲保存箱制作のため綿密に計測される資料。

帙や収納箱が既に破損していたり、冊子と箱の大きさが合っていない資料、製本やバインダーの綴じが傷んでいる資料などを選び、劣化の度合を見て優先順位を決定しました。傷んだ製本を解体し、採寸して箱を作成、収納時には資料の簡易クリーニングも行われました。ぴったりと保存箱に収まった資料は移転作業時の取り扱いにも耐え、無事、改修後の新しい書架に配架されました。

同時に、破損しそうな劣化資料の補修を進め、可能な場合にはマイクロフィルム撮影を行って代替



新書架へ配架された雑誌

資料を作成しました。補修や製本解体を行う事で資料が安定し、より良い撮影を行うことができます。代替資料ができれば、原本閲覧の際のダメージも避けることができます。

今回は移動で壊れそうな状態の資料を優先しましたが、資料を守り、閲覧の利便を高めるためにも、安定して保存できる中性紙保存箱への収納、そして資料補修、マイクロ化、デジタル化を今後も進めてまいります。

これらの保存活動には、ご支援くださる皆様からの寄付金を多く活用させていただいております。皆様のご厚意に深く感謝申し上げます。

「号外」デジタル画像 館内公開開始



日露戦争期の『国民新聞』『報知新聞』号外。日に数度発行されることも多い。

二〇一九年に撮影を行った新聞号外資料を再開館後の新規デジタル画像資料として、館内で公開しました。日露戦争期に新聞社が競って発行した号外群が中心となっているコレクションには、外骨が蒐集した明治前期の貴重な号外も含まれています。

当時の号外は、現代と違って様々な大きさで発行され、手のひらほどの小さいものも多く、保存、閲覧が難しい資料ですが、デジタル化で非常に利用しやすくなりました。公開用のデータ作成は、コロナ禍中の在宅勤務で行いました。発行当時の熱気が伝わる資料をぜひご利用下さい。

足立区立郷土博物館

「谷文晁の末裔——二世文

一と谷派の絵師たち——

資料出陳

足立区立郷土博物館の文化遺産調査

特別展「谷文晁の末裔——二世文」と谷派の絵師たち」(会期 二〇二二年十月一日(金)〜十二月五日(日))に『謝海新聞』を出陳しました。この新聞は、宮津藩主本庄宗武が編集した筆写新聞で、美しい図版が掲載されています。再開館後、初の展示出陳です。

寄贈資料のご紹介

明治二十九年に大阪で発行された『大阪改良雑誌』一〜二号を寄贈いただきました。他の大学図書館や国立国会図書館でも所蔵がなく、稀少な雑誌です。表紙絵は林基春によるもので、偶然にも前号で紹介した新規購入の錦絵「浪華新聞」宣伝資料の画工と同じ人物です。表紙だけでなく本誌をめくると戯画調の挿絵もあり、同じ絵師ながら幅広い活躍がうかがえます。



新規寄贈資料の『大阪改良雑誌』

他にも多くの資料をいただいております。皆様のご厚意により、貴重な資料を利用することができ、感謝申し上げます。